

発行者	兵庫県農業共済組合 宍粟事務所	(0790) 60-3004
連絡先	龍野農業改良普及センター	(0791) 63-5174
	宍粟市 農業振興課	(0790) 63-3109
	ハリマ農業協同組合	
	一宮営農経済センター	(0790) 72-1235

令和5年

# 水稻病害虫防除情報

## 第1号（7月13日発行）

### 1 水稻の生育状況・病害虫発生状況

5月29日の梅雨入り後は、平年と比較して日照時間は少なかったものの、梅雨明けとされる7月19日以降は平年並みか多いと予想されています。今後1ヶ月の降水量はほぼ平年並、気温は平年より高くなる傾向にあります（1か月予報 大阪管区気象台 7月6日発表）。

▶病害虫調査結果（7月13日調査）北部地区

病害虫名	調査結果の概要
いもち病	各地に葉いもちの発生を確認しました。
紋枯病	今回の調査では確認されていません。
縞葉枯病	今回の調査では確認されていません。
ウンカ類	今回の調査で少量の発生を確認しました。
ツマグロヨコバイ	今回の調査では確認されていません。
ニカメイチュウ	今回の調査では確認されていません。

### 2 調査結果詳細

令和5年度 第1回 水稻病害虫発生状況調査 結果一覧表 調査日：令和5年7月13日 天候：雨

調査地区名	作付品種	田植日	病害(抽出25株中の発病株数)								害虫発生状況						その他 箱施用剤 有・無					
			葉いもち		穂いもち		紋枯病		縞葉枯病		ツマグロヨコバイ	ヒメビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	バッタ類	フタオビコヤガ		カメムシ				
			発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度		発生程度				
中比地	ヒノヒカリ	6/1											少	少							有	
矢原	ヒノヒカリ	5/24										少	少									有
宇野	キヌヒカリ	5/13										少										有
青木	コシヒカリ	5/25					1株	少														有
葛根	コシヒカリ	5/28	12株	少			1株	少						少								有
西深	コシヒカリ	5/14	1株	少																		有
杉田	コシヒカリ	5/15	20株	中																		有
谷	コシヒカリ	5/15	1株	少									少									有
西山	コシヒカリ	5/13																				有

### 3 病害虫について

#### ●いもち病

今回の調査で葉いもちの発生ほ場が多く、「中」程度のほ場も見られました。

今年の天候は6月下旬からいもち病の感染好適条件となりました。向こう1か月の平均気温は高い傾向にあり、降水量は平年並みです。日照時間は平年並みか多い傾向にあります。

特に葉色の濃い箇所や冷たい空気の流れやすい川沿いや山沿い、日当たりの悪い箇所などに注意し、葉いもちが発生していないか確認してください。多発する場合は、栽培ごよみ等を参考に防除を実施しましょう。

#### ●トビイロウンカ

収穫前に坪枯れを引き起こすトビイロウンカは、7月13日現在、県内で飛来を確認されていませんが、株本のトビイロウンカの増殖を見逃さないようにこまめに見回り、適期防除を実施しましょう。

## トビウロンカ（秋ウンカ）とは

- 主に6月～7月の間に大陸から風によって移動型(長翅型)成虫が日本列島に飛来する
- 飛来後のほ場では、定着型(短翅型)が現れ、急激に増殖する
- イネの株元を吸汁することで被害が発生し、ひどい場合は坪枯れを引き起こす
- 気温が高く雨が少ない年には、発生が多くなる傾向がある

### 移動型(長翅型)



- 体長約4.5 mm
- 翅が長い
- 大陸から飛来

### 定着型(短翅型)



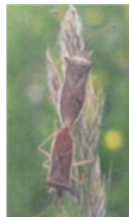
- 体長 約3 mm
- 翅が短い
- 増殖スピードが速い

### ●カメムシ類

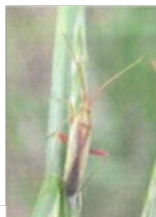
県内一部の調査地点で確認されています。斑点米の原因となるカメムシ類は、雑草が繁茂しているところに集まり繁殖します。出穂期の草刈りは、カメムシ類をほ田に追い込み、逆効果となる場合があります。多発している場合は、穂揃期頃に防除を行いましょう。



クモリカメムシ



ホソハラカメムシ



アカスジカメムシ



トゲシロカメムシ

### 4 有効な薬剤等

品種	防除時期	主な薬剤名
キヌヒカリ コシヒカリ	収穫7日前まで	ブラシン粉剤DL

☆薬剤は使用量等登録内容を十分確認し、適切にご使用ください。

※薬剤に関する詳細は、龍野農業改良普及センター、ハリマ農業協同組合（上記連絡先）までお問い合わせください。

- 《 中 干 し 》 ①無効分けつの抑制、倒伏軽減、コンバインの作業性向上のため、中干しを行いましょう。目安は1株あたりの分けつが16本～18本程度の時期で、軽くひびが入る程度（5～7日間）を標準とします。
- ②中干し後は、間断かん水による水管理で根の活力を維持しましょう。
- 《 そ の 他 》 ①バッタやカメムシ類の水田侵入を減らすため、出穂2週間前までの畦草刈りを徹底しましょう。
- ②長雨で深水が続き、茎数が抑制されている場合は、天候を見て浅水へ移行しましょう。

**農薬の飛散防止に努めましょう。作業中の熱中症対策を忘れずに！**

次回調査予定 7月25日です